



## 美濃保育園 子育て支援棟プロジェクト

美濃保育園は、木育モデル園として木や森を活用した保育と遊びに取り組んできている保育園である。ホール（遊戯室）、子育て支援室のある棟の改築にあたり、「木育園舎」を計画建設した。

### 「木」のかたち

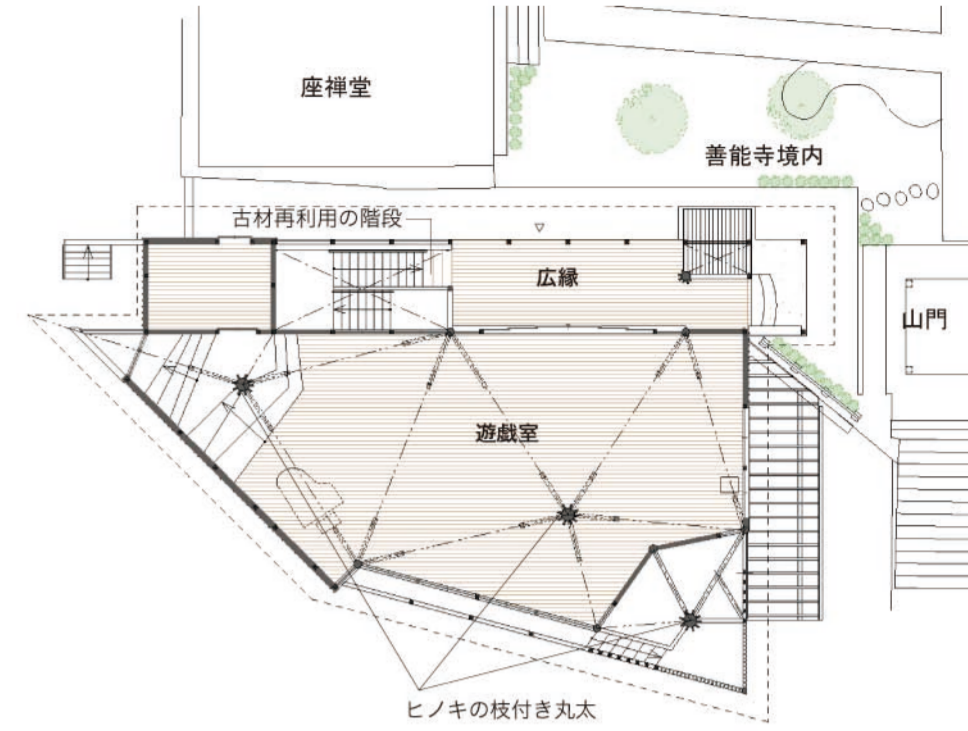
美濃の街は長良川沿いにあり、山々に囲まれた古い街である。保育園はお寺の境内に立地している。街並み、お寺の景観に調和するように、軒を低く抑え、落ち着いた外観デザインとした。園舎を力強く支えるのは、4本の枝付き自然丸太の柱である。丸太を中心に枝がひろがるような屋根架構が、森のような内部空間をつくった。山が連なるような屋根のかたちとなり、周囲の山々を映しているようである。地域の技術（木造在来工法）、地域の材料（岐阜長良側水系のスギ、ヒノキ）を活かし、環境に融合するようなデザインとした。

### 子どもたちに伝えてゆく 山、木、地域

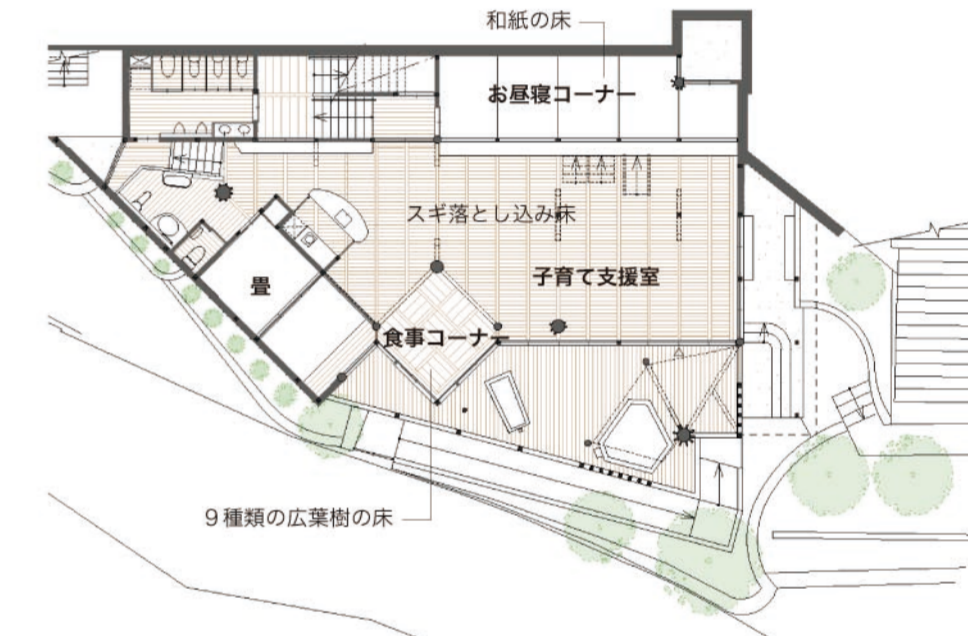
美濃は、自然、山の材料を暮らしに取り入れる技術と文化が伝統的に残っている地域である。身近にある材料と技術による園舎、園舎建設のプロセスを通じ、子どもたちに「木」を伝えていくことを目指した。柱として用いたヒノキの倒伐に子どもたちが立ち会った。山に入り、120年樹齢のヒノキがたおれるときの音、山中にひろがるヒノキの匂い、木が倒れた後の明るい光、木の皮の下の真っ赤な色等を体感した。建設時には、大工が家をつくりあげていく過程を、隣接する園庭から見守った。上棟の祝いにも参加した。子どもたちは、体いっぱい、多くを感じ、学んだにちがいない。

### 木に育まれる子どもたち

木育とは、「木」について、子どもたちに伝える（教育）ことだけでなく、「木」の環境によって、子どもたちを健やかに育むということだ。枝付き丸太の柱は、抱きつき、よじ登り、隠れ、居場所となり、投げ所となる。裸足でオペレッタの練習をするホールの床は、桧板を使った。天井には、地域の木の商品である柿渋を塗った木毛板を使った。柿渋の色が年月とともに美しく変化する。木毛は吸音効果が大きく、柔らかい音環境をつくる。子育て支援室の、スギ落とし込み厚板の上で、走り、遊びながら、木板のしなり、柔らかさ強さを体で感じとる。お昼寝コーナーの美濃和紙貼りの床で、ひんやりと気持ちよく眠るだろう。食事コーナーには9種の広葉樹板を使った。色、木目、匂い、あたたかさ、さまざまな木の上に座って、子どもたちは心と体を育んでいこう。



1階平面図  
S=1:250



地下1階平面図  
S=1:250



木格子が光をやわらげる



ヒノキの丸太が力強く屋根を支え空間をつくる



周囲の景観に調和する外観 山のかたちを映した屋根



スギ板張り外壁



子どもたちが伐倒木立ち会った



お昼寝コーナーの美濃和紙貼りの床



ヒノキの床で、裸足でオペレッタの練習



在来工法による木の枝のような架構